

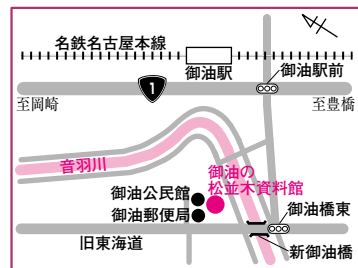


とよかわの

みつけた!



## 御油の松並木資料館の一札事（離縁状）



「三行半みくだりはんを突き付ける。」現代では主に夫に愛想を尽かした妻が、夫に離婚を迫るときの表現として使われていますが、本来は、江戸時代に夫から妻に宛てて出す離婚確認兼再婚許可書でした。

現在の離婚届は、夫婦連名で提出するものですが、当時は女性の権利が弱かったため夫にだけ離婚する権利がありました。夫がこの離縁状を妻に渡すことで離婚が成立するとともに、妻はこれがないと再婚できない（重婚になってしまう）という大事なものでした。

御油の松並木資料館にある「一札事」は、権平さんから妻のおさゑさんに宛てた離縁状です。この3行半の「一札事」は、当時の定形の離縁状で、ここから「三行半（みくだりはん）」という俗称が生まれたといわれています。

江戸時代、経済力のある女性もいたそうなのですが、実はおさゑさんから権平さんに離縁を迫ったものだったかもしれません。

このいわれのある一札事が御油の松並木資料館にあることを知らない方も多いのではないのでしょうか。

